

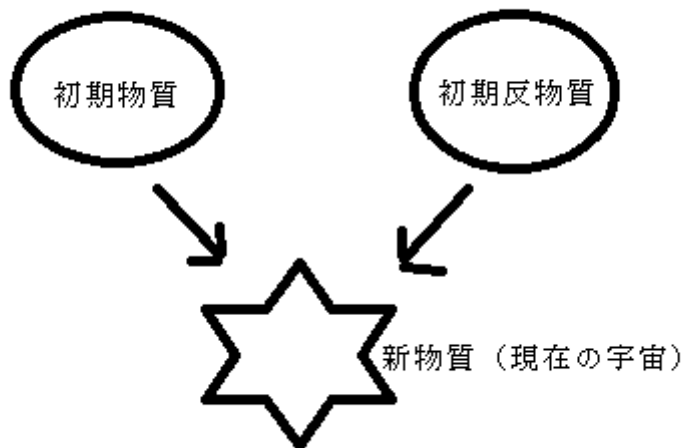
★ネオ宇宙論

宇宙が誕生した際、反物質と物質が融合し、互いの反応で消滅したということであるが $E = mc^2$ という有名な公式でも分かるように「エネルギーによって質量が発生する」

つまり、宇宙が誕生した際、反物質と物質が融合し「新物質が発生した」と考察できる。

もっと詳細にすると「宇宙が誕生した際、初期反物質と初期物質が融合し新物質が発生した」と考察できるのである。

図 1



よって現在の物質（宇宙全体の4.9%に該当する物質）が新物質であり、初期反物質がダークエネルギー、初期物質がダークマターという事である。

無論ビッグバン宇宙論を無視した理論であり、重力が計算上よりも少ない理由はビッグバンなどなく宇宙は常にミクロの世界で「初期反物質と初期物質が融合し新物質が誕生ししているというサイクルを繰り返している」と考えられ結果「重力が新物質に対して存在している初期反物質・ダークエネルギーの影響を受けているため」という事である。

ミクロとマクロの物理反応が違う理由も本説で説明できる。

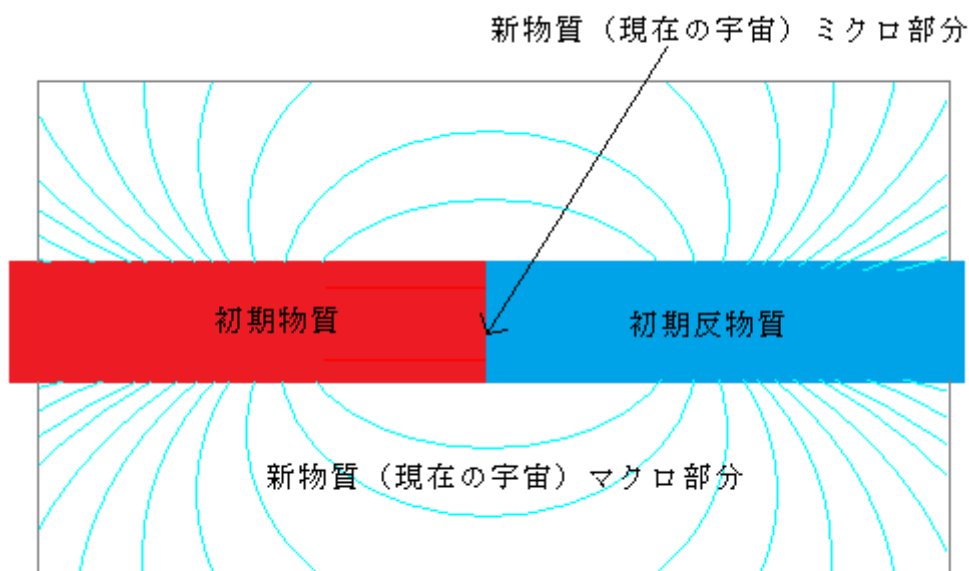
新物質、初期反物質・ダークエネルギー、初期物質・ダークマターの関係は磁石を例に考えると理解できる。

初期反物質・ダークエネルギーが反磁極、初期物質・ダークマターが磁極
新物質が磁界とする。

初期反物質・ダークエネルギー・反磁極、初期物質・ダークマター・磁極が
接触している箇所がマイクロ、周りの磁界がマクロである。

マイクロの箇所では、磁極が接触しているためゼロ磁場のような空間であり、
電子、素粒子では、位置と運動量の両方を同時に正確に確定することができない
不確定性原理が発生し、マクロでは、磁極から離れた磁界であるため
ゼロ磁場ではなく、新物質の位置と運動量の両方を同時に正確に確定することができるの
である。

図2



前記により、統一場理論の矛盾を解くことが可能になる。